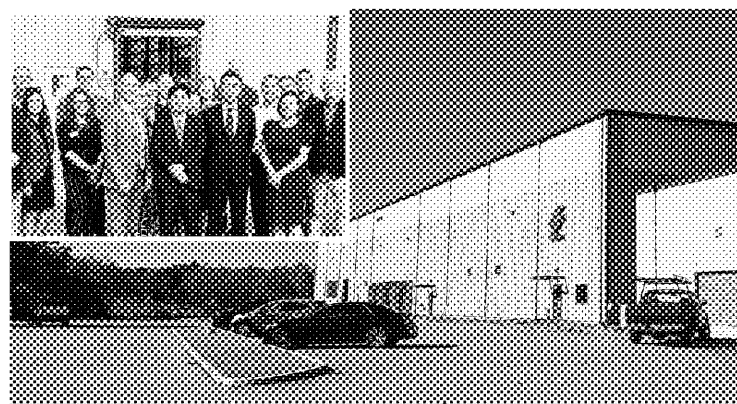


EV 絶縁樹脂で米工場

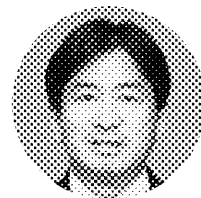
ソマール

ソマールは輸入農業や各種フィルムの販売で足場を固め、現在は材料開発・製造、バイオテクノロジーの研究に注力している。米国では2026年春までに、電動車駆動モーター向けの絶縁・接着用エポキシ樹脂などの生産を始める。国内社員の約3割は開発に携わり、大学や研究機関との連携に余念がない。スピード重視の経営で、約3割の海外売上高比率を30年度には5割超へと高める考えだ。（編集委員・山中久仁昭）



未来けん引する
NEXTカンパニー

ソマールは米ウエストバ
ージニア州で、海外4番目
の工場を稼働する。絶縁・
接着用エポキシ樹脂はモ
ーターなどの耐久性向上に欠



曾谷社長

かせない。曾谷社長は現
地生産について「（保存期
間が設定されるため）鮮度
が命。顧客ごとにカスタマ
イズし、需要量に応じた生
産が必要」と語る。
商社とメーカーの二つの
顔を持つ同社はスピードを
重視している。米工場が好
事例で、州政府の熱烈的な支
援もあつて進出決定から賃
借物件の確保、内部の整備
までに1年かからなかった。
それでも、自動車分野
などで新規取引ができるま
では「数年から十数年か
かり、毎日がテスト
の繰り返し」（曾谷社長）と
し、地道な準備が
持ち味といえる。
1948年に創
業した同社は米デ
ュポンなどの商材
を多数開拓してき
たが、商社事業だ
けでは生き残れな
いと自社工場を立

電動車駆動モ
ーター向けの絶縁・接
着用エポキシ樹脂
を生産する予定の
ソマールの米工
場。工場建屋の視
察で集まった日米
の関係者（左上）

海外比率5割へスピード重視

会社概要

▽創立48年（昭和23）2月▽資本金
11億1522万円▽連結売上高11
約303億円（25年3月期）▽グル
ープ従業員468人（25年3月末）

ち上げた。創業者の孫であ
る曾谷社長はこの流れを加
速し、ここ20年間で四つの
生産拠点を含む海外9法人
を設置した。バスバー（導
体棒）用の外装塗料、カメ
ラレンズ用の遮光・反射防
止フィルムなどは、自社製
品の中でも大きな存在感を
持っている。

同社は現状、売上高こそ
商社機能とメーカー機能が
半々だが、粗利益ではメー
カー機能が全体の約7割を
担い、海外工場が利益の源
泉となっている。台湾やイ
ンドなどの現地法人トップ
には現地人を起用し、将来
的には海外への研究開発拠
点の設置を計画している。

同社の顧客は自動車、精
密機器、製紙関連など多岐
にわたる。自社で扱う材料
を生かす新規事業として、
増粘安定剤を添加したアイ
スクリームなどスイーツ
や、化粧品「とろみ水クレ
ンシング 凄艶」の販売を
始めた。

さらに研究開発ハートナ
ーとしての対応力を磨く考
えだ。顧客から寄せられる
案件を含む新技術・新事業
テーマは月20〜30件あり、
この中から「精査して年5
件くらい採用し、事業性調
査などを行う」（同）。各
部門では性別、国籍などを
問わず、多様な人材の採用
・育成を強化していく。

（随時掲載）